

2020 年度 (令和 2 年度)

学校評価自己評価表

大門 中学校区 校番 25 福山市立 大津野小 学校

最終更新日 2020年(令和2年)4月1日

I 福山市 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
	<ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の活動を推進する。 毎月OPTの取組の成果がよくわかり、質の向上を期待しています。 学力向上及び体力の向上の取組はよくわかります。家庭や地域へ情報発信を期待しています。 業務改善により時間を生み出してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の役に立とうとする気持ちが育成されつつある。 自尊感情は伸びてきたが、主体的に行動する力は弱い。 基礎的な内容は定着してきているが、思考力・表現力が弱い。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自ら考え、学び、表現し、自尊感情の高い生徒
			中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びに向けた授業を創る。 レーダーチャート等を活用し、学級力や自尊感情を高める取組をする。(年3回アンケート実施) 「ワーク・ライフ・バランス」を意識した働き方を進める。

III 自校	ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感力	
	見えない「人間の根っこ(学問・社会性)」を育てる	めざす子ども像	1・2年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
	学校教育目標		3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。
	現状		5・6年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。
	〈児童生徒〉 ○学級会議や全校集会、いろいろな表彰等を通して、学級力や自尊感情が高まり、考えて動く児童が増えてきた。 ○遊び等を通じた運動量の確保をし、楽しみながら体力向上が図れるようになってきた。 △基礎学力・活用力が低く、周りの状況を見て自分で判断して、行動できる力はまだ弱い。 〈授業〉 ○教科領域等の関連を図り、児童の疑問ややってみたいゴールを大切にしながら単元づくりを通して、児童の学習に対する意欲が高まってきた。 △手法に捉われ目的を明確にした協働的な学びが行われていない。 △教師主導の授業も多く、児童一人一人の主体的な学びの保障が十分できていない。	教科等	国語科・特別活動				
		研究	主題・内容等	関わり合い、認め合い、主体的に学び続ける授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～			
		めざす授業の姿	児童が関わり合い、認め合い、主体的に学び続ける授業 <ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を発見し、学びに連続性のある授業 児童が互いに学び合い、「わかった」「できた」「学びが深まった」と実感できる授業 				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大津野小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
1	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	見直し	国語科・算数科における基礎学力の向上と「見直し」と「振り返り」のある主体的な学びの創造【課】 【思】	教科・領域をつないだ単元づくりをする。	・国語科・算数科の授業は「よくわかる」「楽しいと感じる」質問項目に対する肯定的評価80%以上にす。【児童アンケート】								
					児童の課題を分析し、改善を図る。	単元テスト（国語科「思考・判断・表現」（読むこと）「知識・技能」、算数科「知識・技能」観点において、60%未満の児童を低学年6%、中学年9%、高学年12%未満にする。【単元テスト】								
1	主体性・積極性の育成	★	継続	自ら課題を発見し、課題解決に向けて努力する児童を育てる【課】 【主】	月1回OPT（大津野プロジェクトタイム）を実施し、つけたい力を掲示する。全校集会及び異学年での集会を児童の実態に応じて設定する。	学級力レーダーチャートにおける「目標達成力」を85%以上にす。【毎月のレーダーチャート】								
1	たくましい体の育成		継続	めあてをもち、自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】 【主】	課題のある種目について学期ごとの重点項目を設定し、体育授業の改善に取り組む。	新体力テストにおける県平均以上の種目率を65%以上にす。【体力テスト】								

2	教職員の元気	★	見直し	業務改善の実施と仕事のスピード化・効率化を意識した職務の遂行【課】【主】	週・月ごとの計画を早めに立て、見通しを持って職務を遂行する。	時間外勤務時間の平均45時間未満の月100%にする。年次有給休暇5日以上を計画的に取得する。											
3	保護者・地域から信頼される学校の創造		継続	地域に愛着をもち、地域貢献する児童を育てる【共】	年2回以上地域の人と触れ合う授業をつくる。	「大津野が好き」といえる児童を85%以上にする。【児童アンケート】											

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。